

のしろ児童館だより

小松市北浅井町1号21 TEL・FAX 22-6430 平成24年2月号

小さな幸せ探し

最近大学のサークルで「散歩サークル」というのがあるのだそうです。

ぶらぶらと大学周辺 ぶらぶらと時にはもっと遠くまで、みんなで歩きながら、見つけた「ふふっとわらいたくなること」「ちょっぴり心があたたかくなったこと」をメールや写メールで友達に送り、みんなで喜びや幸せを分かち合うサークルなのだそうです。青春爆発、不撓不屈、もえたぎる闘志・・・などのこれまでのサークルの概念からはちょっと外れるかもしれません。サークルも様変わりしたなあと思います。

振り返ってみれば、平成の今日まで、がんばることや、勝つことが一番大切にされ、日本はここまで来たのですが、昨年の大震災以来、価値観が少しずつ変わり、当たり前の日を送れることの幸せに、みんなが意識を向けるようになってきたような気がします。「散歩」サークルもこんな時代を象徴するサークルなのかもしれません。

大学の散歩サークルに入れないわが身としては、一人で町内の道をぶらぶら散歩するしかありません。でも散歩していると、車に乗っては見えない光景に実にたくさん出会います。子供のわらい声が聞こえたり、夕飯の魚を焼くにおいがしてきたり、食器を洗う音が聞こえてきたりします。ふとわき道にそれると、昔ながらの小道に続いていて、そこには全く昔と同じ風景が広がっていて、しじみ貝の殻が、でこぼこ道を埋めるために捨ててあったりします。昔と同じ柿の木やいちじくが少し年老いてまだあったり、何十年ぶりかで、懐かしい人に偶然出会えたりします。

ぶらぶらと、目的もなく歩くことの楽しさを、大学の散歩サークルは思い出させてくれました。

今年は、子育てにおいても、「小さなよいこと探し」「小さな幸せ探し」に努力してみようでしょうか？

ジュースの缶が開けられるようになったこと、目をつむって顔を洗えるようになったこと、自分できちんと鉛筆を削り、自分で明日の準備ができるようになったこと、靴をそろえて脱げるようになったこと、こんなささやかなことが「よかったね」と認められる子は幸せだと思います。これは甘やかしとは違います。

日常の中にある小さな幸せ、そして子どもの小さな成長をしっかり心に止めることができる親でありたいものですね。